



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 攝津製油株式会社

コード番号 2611 URL <http://www.settsu-seivu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 二ノ宮 義治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長

(氏名) 山本 信秀

TEL 072-280-2650

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	7,424	5.8	279	36.1	289	34.7	186	43.7
27年3月期第3四半期	7,017	△3.4	205	△37.7	215	△36.6	129	△36.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	15.31	—
27年3月期第3四半期	10.65	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
28年3月期第3四半期	7,280	57.4	4,180	62.1	—	—	342.66	—
27年3月期	6,506	62.1	4,039	—	—	—	331.05	—

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 4,180百万円 27年3月期 4,039百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,800	5.9	370	40.3	380	37.3	250	48.9	20.49

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	12,222,080 株	27年3月期	12,222,080 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	21,040 株	27年3月期	19,598 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	12,201,703 株	27年3月期3Q	12,202,753 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出型企業を中心に企業収益の改善や設備投資の緩やかな増加、雇用情勢の改善などにより、緩やかな回復基調が続きました。しかし、個人消費は、相次ぐ生活必需品の価格上昇などをうけた生活防衛意識が依然として根強く、訪日観光客などに経済波及効果があったものの、力強さに欠ける状況となっております。また、海外情勢をみましても、中国経済の減速、米国の利上げなどによる新興国経済の景気停滞や急激な原油安、地政学リスクの懸念材料などにより、不安定な状況で推移しております。

こうした経済環境のなかで当社は、化成品事業における安定的な事業収益を生み出す事業基盤強化への取組み、油脂事業における適正な利益を確保しつつ販売量の拡大を図る取組み体制の構築に注力し、さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化などの経営基盤の安定・強化に引き続き取り組んでまいりました。

その技術・研究力の成果の一環として、平成27年11月に特許(名称「殺ノロウイルス組成物」)を取得し、12月1日付で新聞報道いたしました。当社化成品事業においては、これまで外食産業や食品加工工場の衛生管理の向上に貢献してまいりましたが、引き続き、技術・研究力の高度化に努め、食の安全安心に貢献してまいります。

当第3四半期累計期間における業績は、売上高は、油脂事業・化成品事業が増加し、74億24百万円(前年同期比5.8%増)となりました。

また、利益面では、油脂事業・化成品事業の売上高の増加等が寄与し、営業利益は2億79百万円(前年同期比36.1%増)となり、経常利益は2億89百万円(前年同期比34.7%増)、四半期純利益は1億86百万円(前年同期比43.7%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(油脂事業)

当社の油脂事業は、精製受託、業務用斗缶販売、小瓶充填・小ロット精製から構成されています。

精製受託は、主力のコーン油受託量は前年同期を上回ったものの、なたね油の受託量減少を補うことができず、売上高は前年同期を下回りました。

業務用斗缶販売は、年初からの市場における価格改定が徐々に浸透しつつあるものの、十分な水準には至りませんでした。しかしながら、市場価格は、大きく反転することも少なく、比較的安定的な推移となりました。そのような状況におきまして、可能な限り製品価格の是正に努めながら、販売数量の確保にも注力した結果、売上高は前年同期を上回りました。

小瓶充填・小ロット精製は、自社プレミアムオイルは前年同期を若干下回ったものの、アマニ油などのOEM品の受託が増加し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、油脂事業の売上高は33億30百万円で前年同期比4.2%増となりました。セグメント利益は2億22百万円で前年同期比37.7%増となりました。

(化成品事業)

当社の化成品事業は、自社業務品、OEM及び業務提携先OEMから構成されています。

自社業務品は、外食店、食品加工工場向けに中性洗剤、厨房機器用洗剤や除菌洗剤の拡販を行ってまいりました。特に、除菌剤につきましては、特許取得の新聞報道の反響もあり、販売量は増加しました。加えて、主力製品の1つである中性洗剤の販売量が増加したこともあり、前年同期を上回りました。

OEMは、会員販売向け製品販売受託が減少したものの、既存の量販店・ホームセンター向けのハウスホールド製品の一部が好調に推移したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

業務提携先OEMは、業務用洗剤、ケミカル関連商品及び家庭用自動食器洗剤用洗剤の受託はともに増加し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、化成品事業の売上高は38億76百万円で前年同期比7.9%増となりました。セグメント利益は5億31百万円で前年同期比8.6%増となりました。

(その他)

その他については、物流業務における流通加工業務が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、その他の売上高は2億17百万円で前年同期比4.4%減となりました。セグメント利益は66百万円で前年同期比11.6%減となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産合計は、72億80百万円となり、前事業年度末に比べ7億73百万円増加しました。

主な内容は、流動資産につきましては、売掛金及び短期貸付金の増加などにより7億34百万円増加し、固定資産につきましては、建物などが減少したものの、機械装置及び工具器具備品などが増加し、39百万円増加したことによるものであります。

負債合計につきましては、30億99百万円となり、買掛金及び未払金の増加などにより6億32百万円の増加となりました。

純資産合計につきましては、41億80百万円となり、前事業年度末に比べ利益剰余金などが増加し、1億41百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、57.4%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成27年10月28日に公表しました業績予想に変更はありません。厳しい経営環境が継続しておりますが、引き続き、目標達成にむけた取組みを推進してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、平成27年6月17日開催の第205期定時株主総会において、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打切り支給を決議いたしました。

これに伴い、固定負債の役員退職慰労引当金を取崩し、打切り支給額の未払分49百万円を長期未払金として「その他」に含めて表示しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32	98
受取手形及び売掛金	2,439	2,823
有価証券	0	0
商品及び製品	250	225
原材料及び貯蔵品	105	154
短期貸付金	350	582
その他	55	82
流動資産合計	3,233	3,968
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	719	685
機械及び装置（純額）	189	230
土地	1,919	1,919
その他（純額）	141	166
有形固定資産合計	2,969	3,002
無形固定資産	9	10
投資その他の資産	293	299
固定資産合計	3,272	3,311
資産合計	6,506	7,280
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,231	1,668
未払金	605	788
未払法人税等	25	61
引当金	57	39
その他	101	86
流動負債合計	2,020	2,645
固定負債		
退職給付引当金	380	377
役員退職慰労引当金	36	-
その他	28	76
固定負債合計	446	454
負債合計	2,466	3,099
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,299	1,299
資本剰余金	1,165	1,165
利益剰余金	1,504	1,642
自己株式	△7	△7
株主資本合計	3,961	4,099
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	77	81
評価・換算差額等合計	77	81
純資産合計	4,039	4,180
負債純資産合計	6,506	7,280

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	7,017	7,424
売上原価	6,081	6,414
売上総利益	935	1,010
販売費及び一般管理費	730	731
営業利益	205	279
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	4
仕入割引	2	2
受取地代家賃	1	1
その他	1	1
営業外収益合計	10	10
営業外費用		
支払利息	0	-
売上割引	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	215	289
特別損失		
固定資産除却損	1	0
特別損失合計	1	0
税引前四半期純利益	213	289
法人税、住民税及び事業税	68	98
法人税等調整額	15	3
法人税等合計	83	102
四半期純利益	129	186

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(セグメント情報等)
【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,195	3,594	6,789	227	7,017
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,195	3,594	6,789	227	7,017
セグメント利益	161	489	651	74	726

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	651
「その他」の区分の利益	74
全社費用	△521
四半期損益計算書の営業利益	205

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,330	3,876	7,207	217	7,424
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,330	3,876	7,207	217	7,424
セグメント利益	222	531	754	66	820

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	754
「その他」の区分の利益	66
全社費用	△541
四半期損益計算書の営業利益	279

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。